

IGF報告会

2025年第20回オスロIGF会議報告

2025年10月8日

加藤幹之

全体概要

- ノルウェイ、オスロ郊外のリレストロム(Lillestrøm)で2025年6月23日から27日まで開催された。
- 今年のオスロ会議では、165か国から3,344人が現地参加、6,000人以上がオンライン参加した。
- 262のセッションが開催された。
- しかし、会場の都合もあり、ワークショップは400件ほどの申し込みがありながら、52に限定された。
- [IGF 2025 Outputs | Internet Governance Forum \(IGF\)](#) に関連情報を掲示。
- 全体報告書は：[IGF 2025 Summary Report.pdf](#)

メインテーマ

- 今年のIGFのメインテーマは、「Building Digital Governance Together（共にデジタルガバナンスを構築しよう）」であった。
- 表題の通り、IGFはインターネットのガバナンスというより、広くデジタル問題のガバナンス全般を議論する場となりつつあり、来年以降IGFを継続する場合、名称もDigital Governance Forumに変えるべきだという意見も多くあった。

4つのサブテーマ

1. [Building] Digital Trust and Resilience

- これには、サイバーセキュリティ、強固なインフラの構築、AIによる虚偽情報の問題、子供の保護、緊急時のインターネットのインフラの保全など、いろいろな論点を含む。

2. [Building] Sustainable and Responsible Innovation

- 透明性の確保等の個人情報の扱い、プライバシー保護、エネルギー効率に配慮したサステナビリティの問題、デジタルデバイドの阻止、巨大企業や政府等の役割や政策への影響、新技術に関する倫理問題、民主的なプロセスへの誤情報等の影響、などを含む。

4つのサブテーマ（2）

3. [Building] Universal Access and Digital Rights

- 安価なユニバーサルアクセス、アクセスのための財政的措置、デジタル公共インフラ、デジタル格差、アクセスの権利、人権、デジタルの権利確保の現状の法体系、インターネットへのアクセス、多言語のインターネットの促進、デジタルの教育や経済力の確保、インターネットの分断問題、などを含む。

4. [Building] Digital Cooperation

- マルチステークホルダーの参加、異なるステークホルダーのバランスの取れた参加とユースや老人やグローバルサウスの参加、WSISやGDCや2030年のSDGsのアジェンダとの連携、地域や国毎のIGF(NRI)の強化、キャパシティービルディングや知識の共有、デジタル分野の協力の促進、などを含む。

オスロ会議の背景と大きな課題

- 国連では、2024年9月にSummit of the Future会議（未来サミット）で採択されたGlobal Digital Compact(GDC)に基づき、新たに国連Department of Economic and Social Affairs=DESA）内にAI等、デジタル問題を扱う部門を新設する動きがある。
- 一方、IGF創設から20年目にあたる2025年は、IGFをここで終了するか？継続するか？継続するならどのような形で（改革・修正を含め）継続するかをWSIS（World Summit on Information Society=世界情報社会サミット、という国連の枠組み）で議論する年となっている。
- 7月のジュネーブ会議や一連のコンサルテーションを通じて、IGF(WSIS)の今後の議論を続け、Zero Draftが出た。それらの検討を続け12月に国連総会でIGFの今後が決定予定。
- UN DESAの動きは：[WSIS+20 Latest News| Public Institutions \(un.org\)](https://www.un.org/en/development/desa/policy/2024summitofthefuture/WSIS+20+Latest+News+Public+Institutions+un.org)

本会議のメインセッションー 3つ

- やはりAIが大きな項目。一方、IGF開催20回目の今年は下記（3）も外せない。結果として、長年IGFの主要テーマであったプライバシーやジェンダー間の平等等の人権問題は、量子など（AI以外の）新技術問題と結合して扱われた。
 - （1）Governance of New Technologies, including Human Rights （新しい技術と人権）
 - （2）Governance of Artificial Intelligence （AIのセッション）
 - （3）Role of the IGF in WSIS and GDC Implementation （WSISやGDC実施の中でのIGFの役割） = IGFのこれまでの成果や意義、今後のあるべき提言などを行うもの

MAGについて

- 今年のMAGは、（例年の一般公募と3年の任期の制度ではなく）世界中から過去IGFに貢献して来たメンバーの中で1年間だけ選別した40人余りのメンバーで構成している。（今年のメンバーリストは、[MAG 2025 Members | Internet Governance Forum](#)）
- オスロ会議までは、（1）6月のオスロ会議のプログラム決定やセッションの評価選別を行った。オスロではさらに、（2）20年目以降についての（fundingを含む）IGFの在り方を議論した。
- オスロ以降は、来年以降のMAGの在り方も議論している。

MAGとしての会議

- MAGとLP（リーダーシップパネル）との会議[Internet Governance Forum Leadership Panel | United Nations Secretary-General](#)参照
- IGFの将来と必要な修正を決めるWSIS+20の議論を進めるため、国連とIGFの連絡の役割を果たすInformal Multistakeholder Sounding Board (IMSB)を組織することを決定した。これは、政府関係者の会議である国連が、(非政府関係者を中心とした)IGFの参加者の意見を聞くためのメカニズムとして設けられたものであり、LPとMAGのメンバーから合計11人が選出された。
- IGFの将来のファンディングに関するMAG関係者会議。現在のIGF(ジュネーブ)事務局の運営費用は、今年度で2.4ミリオンUSドル程度であり、将来安定的に事務局を運営するには、毎年3ミリオンドル程度の資金の確保が必要

引き続きご意見やご議論、
宜しくお願いします。

加藤幹之